



## 「音楽との出会い」

廣瀬 清彦

音楽科の廣瀬清彦教諭が、全校朝会で生徒に向けて行った講話、「音楽との出会い」をご紹介します。

私が音楽に出会い、興味をもち始めたのは小学校の頃だと思います。私の生まれは大潟町、現在の大潟区です。小学校の1年生か2年生、たしか文化祭で披露する歌で独唱することになったのを覚えています。それが「あわてんぼうの歌」。ステージにあがって全員で歌い始めるのですが、部分的に独唱があるのです。私は何だか頭の中が真っ白になりながらも、すごく緊張して歌った記憶があります。そんな緊張感は初めてのことでした。

また、小学校4年生頃、大潟町小学校には器楽部がありました。当時器楽部には20名以上の児童がいたと思いますが、なぜか男の子は私一人。最初の担当はトライアングルでした。

演奏した曲は音楽祭の発表曲、ノルウェーの作曲家、グリーグ作曲の「ペール・ギュント」の第一組曲より「アニトラの踊り」という楽曲で一曲の中で何回もトライアングルをたたくという名曲（迷曲）です。

（原曲はピアノ曲なので、たぶん編曲が器楽合奏用として、そうになっていたのだと思います）最初は何も考えずに、ただ打ち続けていたのですが、金属製の三角形の棒状の楽器を「一体どこをたたけば良い音が出るのか？」を模索しながら、何度も何度もたたいた記憶があります。

トライアングルは三角形の形をしています、切れ目があります。なぜ、切れ目があるのだ？切れ目の近くの音、遠くの音、紐の近く、いやいや外側から、内側から、はたまた円を描くように……。シンプルな打楽器ですがとても奥が深く、大きさもさまざま、実は材質の違いやバチ（スティック）の太さや大きさ、紐の材質までも変えてみると音質が変化するので。「おもしろい」発見でした。「アニトラの踊り」の楽曲はとても不思議な神秘的音楽で、私は演奏しながらも、その音楽に魅了されました。

後に知ったことですが、この「ペール・ギュント」という物語、「アニトラ」とは主人公ペール・ギュントの財産を狙って妖艶なダンスで誘惑しようとする中東のある部族の娘のこと。ペール・ギュントはまんまと騙されて、砂漠で身ぐるみ剥がされてしまう

いったストーリーなのです。小学校の頃はそんなことは知るすべもありませんでしたが、不思議な魅力ある音楽に魅了され、今でもその曲名を覚えています。

そして高学年、毎週の全校朝会で器楽部は校歌の伴奏を担当することになっており、スネアドラムを担当しました。何気なく叩いていたのですが、全校の児童が歌うものですから、責任重大です。指導されていた先生に「リズム感がいい」とずいぶん褒められた記憶があり、誇りをもって演奏していた記憶があります。

中学生になり、必然的に吹奏楽部に入りました。大潟町中学校の図書室と音楽室は洋風鉄筋2階建てのモダンな校舎でした。その音楽室に入るとまるで別空間に突入したかのような感じになったことを覚えています。その頃の吹奏楽部は30人ほどの部員がいたと思うのですが、男子は数人、中学校3年生の男子生徒の先輩はとても怖くて近寄れない存在でした。いざ演奏する場面になると意気揚々と力強い演奏を披露します。そして、顧問の先生は絶妙なタイミングで興味を引き出して指導してくださいます。私はトロンボーン担当でしたが、スリリングな瞬間を味わいながら、楽しくて仕方ありませんでした。そんな経験を経て、今、私は音楽教師となっています。

板倉中学校にもギターが40台ほど音楽準備室にあります。昭和49年に寄贈されたものです。1学期にはみなさんとギターのチューニングをはじめ、基礎を学習しましたが、大切に扱われていたので大変役に立ちました。

コロナ禍の現在、音楽活動をするのが制限され、自由に思いっきり表現することがままならない状況です。卒業式でも歌唱や合唱をすることが制限され、楽器を吹くことも十分な注意を払わないと実現できません。音楽を演奏することで収入を得ていた音楽家は本当に大変な状況になっていると思います。スマホが発達してユーチューブで音楽や映像を視聴することもできますが、実際に臨場感ある生の音を聴くことが難しくなっていることは、本当に悲しいことです。早く日常に戻り、自由に音楽表現ができる日が戻ることを願ってやみません。それまで、音楽する思いを保ちながら、一緒に頑張っていきましょう！

# ～生徒会役員引継会～

3年生が中心となって取り組んできた生徒会活動の、後輩に引き継がれていくその様子が、全校生徒の目に留まるように、この引継会が行われました。3年生の最後の雄姿をあこがれ、目で追う1、2年生の様子が見られました。

3年生の思いと一緒に、取組の軌跡、資料ファイルなどが1、2年生の新役員に手渡されました。



新会長による新役員への委嘱状授与



前会長による後輩へ託すメッセージ

# ～きれいなトイレをありがとうございます～

昨年7月末に始まった校舎のトイレ工事は全て完了し、1月27日から全校生徒が新しいトイレを使用できるようになりました。

先輩たちが丁寧に使い、きれいに掃除をしてきた以前のトイレは、とても30年以上もたっているとは思えない状態でした。しかし老朽化は確実に進み、改修工事を切望していました。その願いが叶い、すっかりキレイに生まれ変わりました！ 照明も自動！ 手洗いの蛇口も自動！ 快適です！

2月7日の上越タイムスの記事で、「板倉中学校の生徒は、感謝の気持ちを伝えられる生徒であること」が紹介されました。2年生の田中颯馬さんはじめ、1、2年生総務委員が中心となり、全校生徒に呼びかけて、感謝と決意のメッセージを校舎1階廊下の窓に掲示しました。



この行動は、3年生から受け継がれた取組が土台にあり、工事開始当初から、「何らかの見える形で工事関係のみなさんにお礼がしたい」という全校生徒の熱い気持ちが表現されたものです。校舎の対面には、工事関係の方たちの工事事務所があり、そこから見やすい位置に掲示しました。生徒自ら企画し、気持ちを形にしたもので、板倉地域の誇りです。長年にわたり、地域で育まれてきた「感謝の思いを伝えることができる人づくり」をこれからも学校で大切に膨らませていきます。

文字が書かれた用紙の廊下側（裏側）には、生徒一人一人が感謝のメッセージを書いたハート形の付箋が貼り付けられています。

今年を最初の年として、今度はこのキレイなトイレを後輩に繋ぎ、感謝の気持ちを表します。



# ～新入生説明会～

2月8日（月）に、4月から板倉中学校へ入学予定の小学校6年生59名とその保護者の皆様に向けて、説明会を行いました。

学習や生活についての説明、中学校の体験授業、保護者の皆さんへの手続きの説明などを行いました。6年生のみなさんの真剣な眼差しがとても印象に残りました。



英語体験授業：名刺を交換しよう



今年度合唱祭の3年生の発表の上映



理科体験授業：電気クラゲを浮かそう

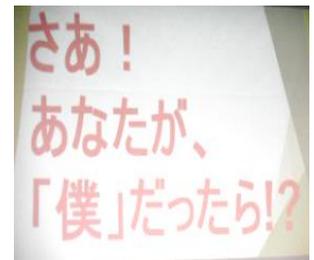
新入生説明会に参加した6年生の感想を次に紹介いたします。説明会を経験して、自分なりの心構えをもてたようです。59名のみなさんの、4月の入学を楽しみに待っています。

宮嶋小学校6年 割田 陽夢也さん  
友達と受けた理科の実験がとても楽しかったです。板倉中学校に入学したら、できるだけたくさんの人と会話をし、仲間を増やしたいです。

豊原小学校6年 武藤 篤世さん  
今までは、たくさんの人に甘えてしまっていたところがあったので、中学校へ行ったら生活・学習面共に自立して頑張ろうと思いました。

## 道徳科の授業 がんばっています～1年生 学年道徳の授業から～

令和元年度から、道徳は「特別の教科 道徳」となり、教科書を使用して授業を進めています。板倉中学校では、平成30年度から上越教育大学上廣道徳教育アカデミーのご支援をいただきながら、道徳科の授業の充実に取り組んでいます。その取組の一つとして、2年生と1年生が学年みんなで学ぶ「学年道徳」に取り組みました。1年生で行なったのは「銀色のシャープペンシル」という、よりよく生きる喜びをテーマにした題材です。自分のシャープペンシルをなくした主人公が、教室に落ちていたシャープペンシルを見つけ、自分のもののように使っていると、友達に「それ僕のじゃ…」と言われるお話です。本当のことを言い出せない主人公の気持ちになって、自分が主人公だったらどうするかを考えてみました。



板倉中学校は、令和3年度と4年度の2年間をかけて、『新潟県中学校教育研究会「道徳科」授業づくり』の研究に取り組みます。この研究を通して、生徒一人一人により深い学びを促す授業を提供できるように、職員で力を合わせて、研究を進めて参ります。

# ありがとう私の母校 ～板倉中学校編～

今回は、卒業を控えた3年生に、思い出をつづってもらいました。

渡邊 朱柁さん

私の中学校での思い出は、合唱祭です。小学校6年生のときからピアノを本格的に始めた私にとって、3年間合唱の伴奏を担当できたことは、とても嬉しいことでした。

板中生の良いところは「あいさつ」だと思います。ですから、来年もよい「あいさつ」を引き継いでください。

3年間、板倉中学校でいろんなことを学べてよかったです。ありがとう、板倉中学校。

吉原 歩さん

僕の中学校での思い出は、体育祭です。今年はコロナウイルスの影響で思いきり応援や競技ができなかったけれど、仲間と共に協力し合いながら最高の体育祭に仕上げることができたので、よかったです。その他にも、いろいろな面で成長させてくれた板倉中学校には、とても感謝しています。

在校生のみなさん、切磋琢磨しながら、今まで以上により学校を作り上げてください。

生井 咲弥さん

板倉中での行事は、どれも思い出に残るものばかりでした。合唱祭は、クラス全員でたくさん練習して、最高の合唱ができました。体育祭では、学年リレーと学年種目で一生懸命に走りました。修学旅行の代わりにリアル脱出ゲームは、本格的な謎解きがおもしろかったです。楽しい中学校生活でした。

3年生の皆さん、3年間の板倉中学校での思い出を大切に、4月からの新しい生活で、自分らしく輝いてください。

皆さんの母校は、いつでも皆さんを応援しています！

笠原 理玖さん

僕には、この学校で一番誇っていること、そして、力を入れてほしいことがあります。それは、あいさつです。僕は、学校に来たときの朝のあいさつがとても楽しみでした。ここから1日のスタートだと思えるくらいです。毎朝校門をくぐると、応援団と生活委員のあいさつから始まり、玄関に入って総務と用務員さんにあいさつをして、教室に向かいます。これらのあいさつのおかげで、いつも気持ちよく教室に向かうことができます。この気持ちを全校が味わえるような、「あいさつ好き学校」になってほしいと思っています。このあいさつは、僕の思い出の一つになりました。

## 輝く栄光

◇令和2年度上越市スポーツ協会優秀競技者賞 3年 稲垣 光希さん

(第54回新潟県空手道選手権大会 中学校3年生男子 組手 第1位)

## 3月の予定

4日(木) 公立高校一般選抜学力検査

8日(月) 第74回卒業式

12日(金) 公立高校入試合格発表

24日(水) 3学期終業式

25日(木) 離任式

29日(月) 令和3年度生徒会リーダー研修会

※3月に予定していた2年生修学旅行は、令和3年度に延期しました。